

科学・技術の哲学(金曜1限)第二回レポート課題

1 テキスト『疑似科学と科学の哲学』第二章および資料「新科学哲学の主要人物の生い立ちと哲学」をよみ、

(1) パラダイム論とはどういう立場なのか、そしてそれは線引き問題とどう関わっているのかを自分の言葉で*まとめよ。ただし、まとめの中で「通約不可能性」という言葉を必ず使うこと。

(2) リサーチプログラム論とは何か、そしてそれはパラダイム論とどういう関係にあるのかを自分の言葉でまとめよ。

長さは(1)、(2)、あわせて800字程度とする

※「自分の言葉で」とは、教科書、資料、その他の文献からの引用をつぎはぎするのではなく、自分で文章をまとめよ、という意味。テクニカルタームなどはそのまま使ってもかまわないし、必要なものはむしろ積極的に使うこと。

2 上の1での自分のまとめをふまえて、以下の問いに答えよ。

(1) テキスト第四章を読み、代替医療とされる分野*を一つとりあげてその分野の基本的な考え方をまとめ、

(2)、それが正統医療と異なるパラダイムといえるかどうか、正統科学と通約不可能かどうかを考えて具体例を挙げながら自分の言葉でまとめ、

(3) リサーチプログラム論の観点から(2)の分析がどう批判されるかを具体例にそって自分の言葉でまとめよ。

長さは(1)、(2)、(3)あわせて1200字程度とする

※テキストでは鍼治療とホメオパシーを解説しており、これを使ってもよいし、その他の代替医療(152~153 ページにいくつか例を挙げてある)を取り上げてもかまわない。

諸注意

教科書と授業プリント以外のものを参照してレポート中に利用している場合は必ず最後に文献名を挙げること(字数には含まない)。特に、他人の文章をそのまま使う場合は、必ずかぎ括弧で引用箇所を明示し、出典を明らかにすること。盗作が判明した場合、その場で授業成績が「不可」となる場合があるので注意。

ワープロ推奨だが手書きも可。(手書きの場合は原稿用紙使用のこと、ワープロの場合は各項の最後に字数を明記すること)。複数ページにわたる場合はホチキスで留めて提出すること。また、レポートには名前と学籍番号も忘れずに書くこと。

採点基準

評価は A~E の五段階で行う。

1に関してはまとめの的確さ、2に関してはどれだけ自分の頭を使ったあとが見られるか、が採点基準となる(もちろん基本的な概念を理解していないような場合には減点される)。長すぎるレポート、短かすぎるレポートも減点する。